

川崎フロンターレ「親子ふれあい防災キャンプ」を支援

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 兼 本貫祐一海佐）は3月23日（土）、富士通スタジアム川崎で開催された「親子ふれあい防災キャンプ」において、自衛隊では初となる支援、そして広報活動を実施した。本イベント会場は、川崎市の指定広域避難場所であり、災害時に役立つ知識や行動を学ぶキャンプをJリーグ所属の川崎フロンターレが企画した。

参加者は、川崎市在住親子25組（74名・内子供38名）が1泊2日の防災キャンプに参加し、AED講習、防災訓練（初期消火、起震車、煙テント）、テント設営、段ボール寝床作り等体験をした。自衛隊神奈川地方協力本部は、防災講話、ブース開設（災害派遣パネル、VR等）を実施した。

防災講話では東日本大震災のDVD放映後、災害派遣参加隊員5名が体験談を講話した。講話後には質疑応答もあり、震災に対する意識向上が窺えた。

また本イベントには、陸上自衛隊第31普通科連隊（武山）の支援を受け、31/2トラック、1/2トラックの車両展示を始め、参加者の夕食であるカレー約100人分を野外炊具1号により調理し、提供した。防災訓練等でお腹を空かした子供達は、隊員から直接カレーライスを手渡され、「隠し味として何か入れていますか」「このカレーは甘口ですか」等、興味津々でお替りする参加者も散見された。

神奈川地本は「今後も、各種イベントに積極的に参加し、自衛隊のPR及び防衛基盤の拡充を図るとともに、各部隊との協力態勢を強化し、装備品派遣等において集客効果を図りたい」としている。



楽しみにしていた！炊き出しの様子



親子キャンプ開始！説明受けの様子



3DVRでパイロット気分を満喫！ ～ in 『丸山“大（だーい）”ホコテン2019』 ～

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 平原一陸尉）は、3月24日（日）、市営地下鉄丸山台駅（横浜市港南区）近くで実施された、丸山台いちょう坂商店街主催の『丸山・大（だーい）・ホコテン2019』で、自衛隊ブースを出展し募集広報を行った。

このイベントは、商店街の振興と駅周辺の盛り上げを目的に行われており、今回2016年から3年ぶりの開催となった。3日前から桜も咲き始めたということもあり、家族連れ等、約2万人が会場を訪れた。自衛隊ブースでは、車両展示、ちびっこ迷彩服の試着及び3DVR体験等を行い、多くの区民が訪れ、大いに盛り上がった。また、神奈川地方協力本部・本部長（兼本一海佐）も会場を訪れ、自衛隊をPRし、特に護衛艦について多くの質問を受け、丁寧に答えていた。来場者の中には、迷彩服を着用した子供の姿を見て、撮影しながら「かっこいい」との声が聞かれたり、3DVRを眺めては「ブルーインパルスのパイロットになった気分」と興奮した姿が見られたりする等、終始賑やかな声が絶えることがなかった。

上大岡募集案内所は、「今後も地域行事に継続的に参加し、自衛隊をアピールするとともに、このような広報を繰り返し、募集成果に繋いでいきたい」としている。



来場者に説明をする本部長 兼本一海佐（中央）



3DVRを体験中の来場者